

令和4年度財務会計システム更新事業 プロポーザル審査基準

1. 審査項目・配点

| 審査区分 | 審査項目 | 粗点 | 配点 |
|------|-----------|-----|-------|
| 一次審査 | 経費見積書 | 200 | 200 |
| | 機能要件回答書 | 850 | 600 |
| | 小計 | — | 800 |
| 二次審査 | プレゼンテーション | 410 | 500 |
| | 小計 | — | 500 |
| 合計 | | — | 1,300 |

2. 審査（評価）方法

① 一次審査

| 審査項目 | 審査（評価）方法 |
|---------|-----------------------------|
| 経費見積書 | 別記計算式により計算する |
| 機能要件回答書 | 参加者の回答内容を機械的に集計した点の割合から計算する |

一次審査の点数が480点以上かつ上位2者程度を一次審査通過とする。

② 二次審査

| 審査項目 | 審査（評価）方法 |
|-----------|---------------------|
| プレゼンテーション | 各委員が評価した点数の割合から算出する |

一次審査と二次審査の合計が780点以上の者で、最高得点者を第一受託候補者、次点の者を第二受託候補者とする。

3. 経費見積書の評価計算式

次の①と②の評価式で審査点を算出し、その合計を経費見積書における評価点とする。

① 初期経費における評価

経費見積内訳書（初期経費）が最も低い者の金額をAとする。

当該参加者の経費見積内訳書（初期経費）をBとする。

評価式： $(A \div B) \times 80$ 点（小数点以下切捨て）

② 経常経費における評価

経費見積内訳書（経常経費）が最も低い者の金額をAとする。

当該参加者の経費見積内訳書（経常経費）をBとする。

評価式： $(A \div B) \times 120$ 点（小数点以下切捨て）

4. 評価項目

プレゼンテーション

| 評価基準 | 粗点 |
|------------------------------------|-----|
| セキュリティ・耐障害性が確保されている | 20 |
| サポート体制が整っている | 20 |
| 実績が豊富なパッケージである | 50 |
| 将来的な機能の拡張に優れている（標準化・文書管理・電子決済・その他） | 50 |
| 直観的に操作可能でストレスのない操作性である | 50 |
| 入力・操作ミスがあっても修正が容易である | 50 |
| 業務の効率化が期待できる | 50 |
| 分かりやすい画面デザインである | 50 |
| 一覧表の扱いやすさ、各帳票の見やすさ | 20 |
| データ抽出機能が充実している | 50 |
| 計 | 410 |